



## Q1 どんな先生が教えているのですか？

**A1** 教研の先生は「超一流」です。  
各方面で最高の評価を受けている自慢の講師陣です。

「結果」を出せる先生が超一流の先生です。

大手予備校の中には「学生が到底思いつかないような解法やパフォーマンス」で人気をとっている先生もいますが、私たちから見たら、ただの「自己満足」で決して超一流の先生とは言えません。

超一流の先生は「結果」を出すための工夫をします。テストをします。問題演習に時間をかけます。当然指導技術は持っていますが、「結果」を出すための方法を知っています。派手さと地味さを常に兼ね備えているのです。

教研の先生は、「授業がよくわかる」と感じ「成果を実感」できる授業で、「満席」「増設講座続出」「授業アンケートほぼ95～100%」を実現する「超一流」の先生です。

## Q2 質問できますか？ 現在予備校に通っていますが、質問がしにくい雰囲気です。

先生が直接質問に答えます。

**A2** 予備校によっては「質問行列」ができたり、「学生チューター」が質問に答えているそうです。

教研は、「超一流」の先生が直接、質問に対応します。予備校では先生に長時間の質問をすることはできません。予備校から移ってきた学生は質問のしやすさに驚いています。

### Q3 授業で小テストなどは行いますか？

**A3** 超一流の先生は「指導技術」だけではなく、テストや演習を重視しています。当然、テストや問題演習には十分に時間をかけています。

全員を把握できる人数のため、確認テストや課題の回収・チェック（採点）は先生が直接行い、個別にフォローしています。必要があれば生徒面談もします。

更に、計算力が影響する理系教科は、授業終了後に正解するまで演習することもあります。

これらの地道な指導を「超一流」先生自らが実施し続けることで、他では実現できない合格実績を出し続けています。

### Q4 授業を欠席したらどうなりますか？

**A4** 欠席した授業はすべて録画します。後日、同じ授業を視聴することができます。

大学受験指導の授業は内容が濃く、1回の欠席がその後に大きく影響します。集団授業を欠席した場合、映像授業で出席時と同じ授業を受講することができます。

※映像録画には事前欠席連絡が必要です。

## Q5 「数学演習」はどのような授業ですか？

**A5 「数学ⅠとA」または「数学ⅡとB」を受講する生徒対象の無料講座です。地道な演習で効果を出しています。**

高校数学は地道な練習が欠かせません。毎週、定期的に長時間練習することで確実に力をつけることができます。「数学ⅠとA」または「数学ⅡとB」をセットで受講する生徒は無料で受講することができます。※「数学Ⅰのみ」のような場合は有料です。

## Q6 「演習」はどのような授業ですか？

**A6 演習しなければ効果は期待できません。地歴公民の学習法を根底から変えた「教研独自」の演習講座。必ず結果を出します。**

教研では、共通テスト・模試・定期テスト等の日本史・世界史は高得点を実現させています。その秘訣は演習にあります。

地歴公民の場合、授業と同じくらい重要なのは問題演習ですが、多くの学生はこの問題演習が明らかに足りません（授業を受けて満足しています）。本演習では受験までを逆算し、「いつ」「何を」「どのように学習するのか」を、志望校を考慮した上で明確に指示し、それを忠実に遂行させます。共通テストのみならず、私大一般入試でも地歴公民の得点率を8割以上にすることが可能です。

学生にとって計画通りに学習を進められないことは常ですが、本演習をペースメーカーとすれば間違いなく成果は出ます。

## Q7 共通テストの対策はどうなっていますか？

**A7** 9月以降に受験生を対象に実施しています。テストを実施して問題に慣れていきます。

共通テストは、一般入試問題とは異なる対策が必要です。共通テスト特有の問題、共通テストでしか出題されない単元があるからです。共通テストの過去問を徹底的に分析した「独自の解法」を伝授し、必ず結果に結びつけます。超一流が分析した「独自の解法」を身につけた方が、自分で学習するより遥かに効率的です。9月以降のテスト演習で力をつけていきます。

## Q8 模擬試験は実施しますか？

**A8** 高1生・高2生は年間4回実施します。

学校の成績だけでは自分の実力は図れません。また受験に向けてのモチベーションも上がりません。高校1、2年生は年に4回模試を実施し、偏差値と志望校判定で早い時期から受験の意識を持たせます。第4回模試（1月実施）はマーク模試を行い、共通テストを意識したカリキュラムを導入しています。

## 超一流講師の紹介

### 高柳英護 Takayanagi Eigo

### 数学・物理・化学

教研所属の専任講師。大手予備校でもその手腕を発揮している。数学、物理、化学の全ての教科において難関大学合格まで導くことが出来る日本で唯一とっていい稀有なプロ講師。

自身の指導技術・能力向上のため、東大・京大・東工大をはじめ早稲田・慶應など難関大学の入試問題分析には余念がない。これら大学の近年 10~20 年間分の入試問題はほとんど全てが頭に入っており、解法も瞬時に浮かぶほど。授業パフォーマンスも強いため、聞いていて飽きることはない。

直接指導した学生の難関大学合格校は当会も含め、東大・東工大・横浜市立(医)・東北大・慶應(医)・慈恵医科・順天堂(医)・自治医大・防衛医大・日大(医)・北里(医)・東海(医)・昭和(医)・東京医大・杏林(医)・日本医大・早稲田他多数。これら難関大学以外にも、高校3年生の第1回河合塾全国記述模試で偏差値が45前後の学生を、何人も東京理科大学に現役合格させる指導も行なっている。

#### <紹介>

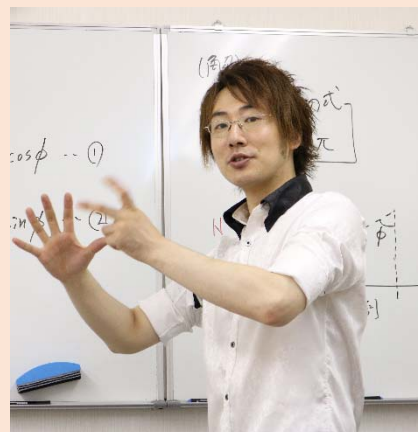
『理系科目は「本質」から理解しなければいけない』 このことをモットーに常に熱血指導をしている。難関大学合格の多くの学生は「本質を理解させる高柳の理系教科」の力に寄るところは大きい。

指導教科に関する努力は怠らず、常に最新問題の分析や指導法の研究には余念がない。毎年、10~20校(学部)の入試問題を的中させ続けている。当会が絶大な信頼を置いている専任講師の一人であり、学生からの評価も非常に高い。

「今まで習っていた先生の授業が、いかにダメな授業だったか……。高柳先生の授業を受けてはじめてわかった」このような声は常に聞く。

「素晴らしい指導者と出会うこと」はその学問に開眼することで、「人生を変えること」といっても過言ではない。

理系を本格的に目指している学生諸君！是非、早く、「高柳の授業」に出会ってほしい。



「英語に才能は必要ない」

寺島先生はこう言い切る。

「努力する意志」さえあれば、必ず結果を約束してくれる先生である。

寺島よしき先生の専門は「第二言語習得論」、つまり、第二言語である「英語」を効率よくマスターさせる専門家である。

その一歩としての「単語」。多くの学生が苦勞する「単語」は、嫌でも・確実に・すべて覚えられる指導をする。



その手法は授業が始まってからの楽しみだが、寺島先生の授業を受けて「単語が苦手」という学生は1人もいないことから、大いに期待してほしい。

多くの著書を記す人気講師だが、いつでも教壇を降り、生徒一人ひとりに対応する熱血ぶりを示す。

### 寺島先生から

英文法や長文読解は、私の理論で確実に伸ばしますが、それだけではなく、記述問題の解答法等、得点につながる細部まで指導します。

たとえば、英作文で「『最近』を『lately』で表現してはいけない」、と私は指導します。それは、「lately」はネイティブによって使い方が異なるからです。

ある大学の先生は、「lately を肯定文で使用したら×」と言います。また他の大学の先生は、「lately は現在完了なら肯定文でも○」と言います。つまり、「lately」は採点官によって基準が異なる語なのです。よって、私は「recently」や「these days」を使用するように指導し、更に「recently」と「these days」の違いにも言及します。

これはほんの一部ですが、言語とは本来このような用法の違いがもっとも難しく、「第二言語」を学ぶ上での「壁」と言ってよいでしょう。このような知識を集約して、効率よく、無駄なく身に付けさせることで、君たちの成績を伸ばします。

予備校で担当講座が満員締め切りになる実力は本物！  
学生が「国語力がついた」と確信する希少な実力講師

早稲田大学第一文学部日本文学専修卒。

学生時代から教壇に立ち、講師歴は長きにわたる。

予備校のみならず高等学校講師としても活躍してきたその実績と経験は本物。現在も多数の予備校を掛け持ちし、担当する季節講習は毎年、締切になるほどの大人気講師。

早大、上智大の国語全般の指導に精通しているばかりではなく、慶應小論文、国立二次の記述対策で、毎年、多くの受験生を逆転合格させている。

田島先生の超一流授業が、多人数の予備校ではなく少人数の教研で受講できることはまさに奇跡に近い。



